

平成 24 年 6 月 25 日

各位

会社名 アンジェス MG株式会社
代表者 代表取締役社長 山田 英
(コード番号 4563 東証マザーズ)
問合せ先 代表取締役副社長 村山 正憲
電話番号 03-5730-2480

**当社プロジェクトが「おおさか地域創造ファンド 重点プロジェクト事業助成金
(医薬品・医療機器 事業化・成長促進支援プロジェクト)」に採択
ー子宮頸部前がん治療用「経口ワクチンの製剤技術」の開発プロジェクトー**

当社は、子宮頸部前がん治療用「経口ワクチンの製剤技術」開発について、この度、大阪中央地域活性化推進協議会の平成 24 年度「おおさか地域創造ファンド重点プロジェクト事業助成金 (医薬品・医療機器 事業化・成長促進支援プロジェクト)」に採択されましたのでお知らせいたします。

子宮頸がん治療ワクチンの開発は世界中で試みられてきましたが、未だに成功例はありません。これは皮下注射や筋肉注射といった投与経路が用いられてきたためだと考えられます。一方、今回、当該事業で開発を目指す子宮頸がん治療ワクチンは経口投与による治療ワクチンであり、細胞性免疫を活性化することができます。また、経口投与なので利便性が良く、多くの患者さんに望まれる投与経路であるといえます。この経口投与による治療ワクチンは、子宮頸部前がん病変を有する患者さんで有効性と安全性が示唆され将来有望な治療手段として期待されており、今回のプロジェクトでは最新の製剤技術を活用してワクチンの低用量化を図ります。

この経口ワクチンの対象患者は、ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染者で子宮頸部の軽度異形成あるいは高度異形成の前がん病変を有する女性です。現在、HPV 感染者は世界で年間 3 億人以上といわれ、そのうち約 10%が前がん病変の初期段階に移行し、その後、前がん病変の後期である高度異形成 (CIN3) からは 30-40%が子宮頸がんに移行すると言われております (WHO 公表)。前がん病変の後期 (CIN2-3) の潜在的な罹患数は、米国で 10-15 万人、日本で 7-10 万人と推定され、有効な治療薬の開発が求められています。今回の製剤技術を適用した子宮頸部前がん病変に対する治療ワクチン (CIN 治療ワクチン) の開発が進めば、多くの患者さんに福音がもたらされると期待されます。さらに、本プロジェクトで構築する製剤技術は他の経口ワクチンにも応用可能であり、当社では世界に類のない経口ワクチ

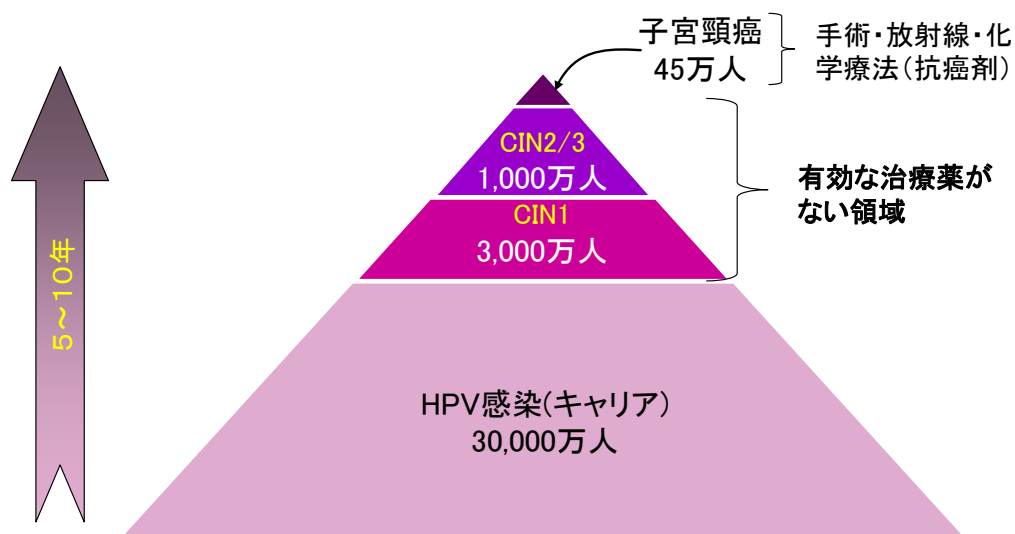
ンおよびそのための製剤技術の開発・事業化を目指してまいります。

なお、本件により平成 24 年度の営業外収入が見込まれますが、本年度業績への影響はありません。

以上

(参考)

HPV感染者の子宮頸がんまでの移行(推定罹患数)



全世界での推定年間罹患患者数
(1999年WHO公表)